

会 議 録

1 会議名

令和5年度第3回有田区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【協議事項】

- ・地域の活性化につながる取組について（公開）

3 開催日時

令和5年10月30日（月）午後6時30分から午後6時55分

4 開催場所

上越市カルチャーセンター ミーティングルーム

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員： 熊木敏夫（会長）、樺沢早苗（副会長）、市川 禅（副会長）、
池田憲雄、荻原慶一、栗間良子、高橋邦夫、高橋秀樹、平井弘一郎、
藤井英夫、渡辺恵子（欠席者6名）

- ・事務局： 北部まちづくりセンター：佐藤所長、近藤副所長、小川係長、丸山主任

8 発言の内容

【近藤副所長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【熊木会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：平井委員、渡辺恵子委員に依頼

議題【協議事項】地域の活性化につながる取組について、事務局へ説明を依頼

【小川係長】

・資料No.1「有田区における『地域活性化の方向性』」に基づき説明

本日は高橋秀樹委員から、構成要素の②、③、④の流れをくむ事業として、11月23日にカルチャーセンターで実施予定の「マタニティ&子育て家族フェスタ有田」について紹介していただき、事業実施者の高橋秀樹委員への質問など、意見交換をしていただきたい。

【熊木会長】

ただいま事務局から説明があったように、構成要素の②、③、④を合わせて、有田区全体で取り組むことを検討することとする。事例の紹介ということで、高橋秀樹委員から説明をお願いしたい。

【高橋秀樹委員】

各町内には、この事業のチラシをすでに回覧していただいていると思う。実はこういう子育てのグループがあり、私ども有田福祉の会は高齢者の関係の活動をしているが、ほかにも子育てサークルやベビーマッサージのグループへの支援も行っている。有田福祉の会をご存知のとおり有田地区町内会長協議会の傘下にあるので、そのことを含めて、子育てのグループのメンバーからこのような子育て関係の計画が出てきたということである。これは有田区が初めてではなく、昨年度、直江津区の屋台会館や、大潟区でも実施している。有田区は人口も多く、カルチャーセンターで子育てのイベントをやると、大勢集まってくれるということで、カルチャーセンターを中心にして、有田区に根差したそういう活動をしたいという相談があった。今日は欠席されている渡邊瑞穂委員と他2の方が中心となり、主催の特定非営利活動法人ふぁみりりで計画してすでに活動している。非常に期待するのは、企画を立てているのが30代の若い方ということである。私も含めて、ある程度年齢の高い人は高齢者のことしかやらない。

なぜ、有田福祉の会は共催という形にしたかということ、カルチャーセンターで一番使用率が高いのは有田福祉の会であり、子育てサークル等への支援もしているということも含めて、今回のこのイベントを見ながら、どう育てていくかということを見たい。高齢者の件も含めて、このイベントを育てていくという感じで、少し関わってはいるが、客観的に見て、どのようにしていくかということを考えている。

これは普通のイベントと違って、チラシの裏面を見ていただくと、出展ブースということでこれだけいろいろなブースがセットされている。まず、食べておいしいということでキッチンカーがあったり、それから癒し体験ということで女性の整体サロン等、や

ったのしいボードゲーム、買って・貰ってわくわくなど。はたらくくるまは、重機、トラック、パトカー、消防車、ファミリーカーの展示がある。気軽に相談コーナーには有田福祉の会も参加し、ブースを作って実際にやっていることを体験してもらう。それから社会福祉協議会などの事業所も参加し、それぞれがブースを使って実際にこの有田区で今どんなことやっているかということを経験してもらう。時間は午前10時から午後3時までなので駆け足だと思うが、あまり深く考えずに、お試しの様な感じでやってみる。それを今度高齢者とコラボしながらどうやっていくかということを経験している。ステージイベントとして、JCVが来たり、ダンススクールのダンスステージ、大道芸のパフォーマンス等、一堂に会していろいろなことを触りだけでみんなやってみようということになった。どれができるかということを見極めてこうと考えている。同時開催として、スポーツの楽しさ体験コーナーということで、上越高校のサッカー部と卓球部をお願いして来てもらう。あとは、体操、テニス等の体験ができる。ふぁみりりは、ちびっこの大運動会もやるということで、相当盛りだくさんで欲張りである。あとは子育て世帯の防災セミナーや、子供の応急処置体験もある。本当は高齢者の方も含めて、日本赤十字社の方やいろいろな健康づくりの方に来てもらえばいいのだが、あまり欲張っても非常に大変になるので、とりあえず直江津区や大潟区でやったものをベースにして有田区独自のものを加えていき、最終的にはフリーマーケットも含めて将来は実施していくことを考えている。

今年の状況を見て、来年から有田区の目玉として、年一回の行事として入れていってはどうかということで、皆さんの賛同を得る、得ないにかかわらず実施するという考えで考えている。内容としてはこのようなことである。

回覧も回っており、町内会関係の方には申し訳ないが、これからポスターをどこかに貼ってほしいとのお願いもあると思う。有田福祉の会が共催ということで、町内会長協議会の許可を得ないうちに、とにかくやることをやってみようということで私のほうで勝手に進めて申し訳ないが、やってみてそれから軌道修正したいという思いがあり、いつまでも考えているだけでは前へ進まないのご理解いただきたい。

【熊木会長】

今ほど高橋秀樹委員から説明があったが、質問、ご意見等があればお願いしたい。

【高橋邦夫委員】

先ほど説明があったように、この会が大潟区や直江津区で開催されたことは情報とし

て知っている。今高橋秀樹委員がおっしゃったのは、有田区における地域活性化の方向性で、先ほど事務局から報告があった「学校コミュニティーを中心に、あらゆる世代の人々がカルチャーセンターなどの拠点を活用して何かやる」ことについて、たたき台とさえいいののか、一つやってみた中でイメージを膨らませて、有田として本当にできることを、やれることは何かの検討材料にしてほしいというような受け止めでよいか。

【熊木会長】

他に質問、意見を求めるがなし。

市としてはどのようにとらえているか。市として参画したり、分野が多岐にわたっているので課は特定できないと思うが。

【佐藤所長】

会長から市としての参画等についてご意見をいただいたが、今はその段階にはまだ立っていない。チラシを拝見して、構成要素②、③、④を合わせた事業として、有田区として進んでいく方向がこういうことではないかととらえている。あらゆる世代の皆さんから参画いただいて、まず「マタニティ&子育て家族フェスタ 有田」が広まっていき、有田区としてまずはこの事業を始められる。この後、来年度、再来年度どのような事業にステップアップしていくかということ、事務局としても楽しみにしている。

【熊木会長】

課として参加するというよりも、基本的に経費はゼロでスタートできないと思う。ほとんどの場合は協賛の会社持ちということの理解でよいか。

【高橋秀樹委員】

具体的には聞いていないが、協賛のところと県民助け合い基金助成事業の補助金を若干獲得したようである。

【熊木会長】

私が先ほど市がどうとらえているかと言ったのは、要は経費のことで、課として参画してもらいたいという意味合いではなく、市としてこういった行事または活動に関して、積極的に補助をしようという意思を持っているのかどうかということをお聞きしたい。こういった事業は、人が集まればお金かかるので、100円、200円であれば寄付でなんとかできるが、これは大掛かりな部分があるので、今後は今回の様子を見て、地域で出すに値するのかということを含めて見ていかなければいけないと思う。当然市から出ている補助金を目当てに行く部分もあろうかと思う。地域協議会としてもそういう部

分で参考にしていきたいと思うので、市としてもお願いしたい。

【池田委員】

高橋秀樹委員にお聞きしたい。趣旨はよくわかったし、私としては賛成である。有田区のカルチャーセンターで実施する前に、大潟区と直江津区で実施したのは、季節的には秋の終わり頃か。天候等その辺を教えてほしい。

【高橋秀樹委員】

もっと早い時期だった。有田区では、本当はもっといい時期にやってはどうかという話はしていたのだが、予算が取れたのでやりたいということで、11月にずれ込んでしまった。

【池田委員】

ぜひ私も参加させていただきたいし、成功させたいと思う。

【熊木会長】

他に意見を求めるがなし。

この事業について、できる限り皆さんから足を運んでいただきたいと思う。

次回以降もこれに沿った協議になろうかと思うのでお願いしたい。

【高橋秀樹委員】

行政のほうでは、こども・子育て部が動いてくれているが、市はお金があるわけではないので、どうやって予算をつけるかということで、大分苦勞しているようである。

それから、有田地区の公民館講座の中で、親子の触れ合いベビーマッサージの体験をやっている。それをこのイベントでもやるということで、社会教育課も参画し、市もかなり関わっている。

問題は、今会長が言われたとおり、予算、お金をどうするかというところが一番気にかかるところである。前回の収支がどうだったのかはあまり聞いていないが、やりくりしているようなので、とりあえずはいいのかと思っている。

【熊木会長】

収支は資料を貰えないと思うので、高橋秀樹委員から個人的に聞いていただければありがたいと思う。

次に、その他について、事務局へ説明を求める。

【小川係長】

次回の協議会については、協議案件があれば会長と日程調整し、開催日をお知らせし

たい。

報告事項として、有田区の地域協議会委員の定数が、次期改正の時に変更になるため説明をさせていただきたい。地域協議会委員定数は、人口を基礎とする全市統一の基準に基づいて設定しており、委員改選の前の年の9月30日現在の各地域自治区の人口を基に、5,000人ごとに最小で12人、最多で20人までの間で定数を設けている。有田区は、前回の令和元年9月30日時点の人口が1万5,242人だったことから、基準により、委員定数を18人としていた。令和6年4月28日をもって委員の改選となることから、本年の9月30日現在の住民基本台帳に基づく人口を当てはめたところ、有田区の人口は1万4,968人となり、今回1万5,000人を下回ることから、有田区地域協議会委員の定数を現行の18人から16人に変更することとなる。これにより、次の任期の委員定数の合計は、現行の382人から380人となる。現在、地域協議会委員の定数の変更に伴い、上越市地域自治区の設置に関する条例の一部改正を行うことで、12月議会への提案に向け所要の手続きを進めている。なお条例の施行期日については、次期地域協議会委員の任期が開始する令和6年4月29日となる予定である。

【熊木会長】

他に意見を求めるがなし。

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

総合政策部 地域政策課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

E-mail : hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。